

平成 29 年度第 1 回あいち医療ツーリズム推進協議会 議事概要

日 時：平成 29 年 7 月 11 日（火）午後 2 時から午後 3 時 25 分まで

場 所：愛知県庁本庁舎 6 階 正庁

出席者：（委員）16 名（代理含む）

（事務局）保健医療局長、保健医療局次長、健康福祉部技監、
医務課長 他

1 挨拶（愛知県保健医療局 松本局長）

2 議題

(1) 平成 29 年度の医療ツーリズム推進に関する取組について

（愛知県医務課 長谷川課長）

- 資料 1 から資料 3 により、以下について説明
 - ①シンポジウムの開催
 - ②国際医療コーディネーター育成研修の実施
 - ③アンケートの実施

（会長 愛知県医師会 柵木会長）

- ①のシンポジウムについて御意見はあるか。
→特になし

（会長 愛知県医師会 柵木会長）

- ②の国際医療コーディネーター育成研修についてはどうか。

（医療法人偕行会 川原理事長）

- 講師の目途はついているのか。

(愛知県医務課 上田主幹)

- 研修の委託先と今後調整していきたい。

(中部メディカルトラベル協会 木村事務長)

- 多摩大学の真野先生や弁護士を想定している。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 受講者の対象(資格や職種)はどう考えているか。

(中部メディカルトラベル協会 木村事務長)

- 外国人を実際に受け入れる事務の方を主に想定している。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 旅行関係者も対象にしても良いのではないか。窓口となる人材を育成し、器作りをしてほしい。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- ③のアンケートについて御意見はあるか。追加した質問項目はあるのか。

(愛知県医務課 長谷川課長)

- 国際戦略特区に関連し、「ビザ関連の不都合」についてお聞きする項目を追加するなどした。なお、全体向けの質問票と、医療ツーリズムを実施(予定含む)している医療機関向けの質問票に分けた。

(あいち健康の森健康科学総合センター 津下センター長)

- 【設問2-4】のあたりで外国人患者の受入れを実施している診療分野・診療科を質問しているが、例えば眼科であるなら、どの技術を提供する予定かなど、もう少し詳しく書いてもらってはどうか。

(愛知県医務課 長谷川課長)

- 分かりやすい表記にするなど、ご指摘を踏まえて検討したい。

(愛知県歯科医師会 内堀会長)

- アンケートの対象は病院だが、歯科を持つ病院は多くなく、あっても口腔外科が殆どである。診療所にもアンケート対象を広げてはどうか。

(愛知県医務課 長谷川課長)

- 医科における診療所まで拡大するのは難しいということで病院を対象にしてきた経緯があるが、クリニックで積極的にやられることもあると思う。医科と歯科で違う面もあるが、歯科では大規模・小規模にかかわらず受け入れられることもあると再認識した。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 県が歯科診療所まで対応するのは難しいと思う。歯科医師会で独自にアンケートしてもらってはどうか。

(中部メディカルトラベル協会 木村事務長)

- 歯科の実際の事例として、中国からのインプラントが多くなっている。名古屋市内でも受け入れてもらったことがあるので、需要としてはある。

(愛知学院大学歯学部附属病院 服部院長)

- ②の研修に戻って、受講者は30名ということだが、歯科でもやっていこうとする中で、30名を超えてしまったらどうなるのか。県が決めるとはどのように決めるのか。

(愛知県医務課 上田主幹)

- 会場の定員もあるが、研修の委託先と相談しながら柔軟に対応していきたい。

(愛知県医務課 長谷川課長)

- 研修内容にグループワークによる演習があり、人数が制約される中ではあるが、できるだけ多く受講いただけるようにしたい。定員を超えるようであれば事務局としては非常に喜ばしいが、逆に集まらないことも心配しているので、ぜひご協力をお願いしたい。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- 医療機関ごとに何名と決めているのか。

(愛知県医務課 長谷川課長)

- 決めていない。なお、医療ツーリズムを実施（予定含む）している医療機関向けの質問票の最後に、当研修のPRを掲載している。

(名古屋大学医学部附属病院 石黒院長)

- 募集時には、想定する人物像（医事に精通や日本の医療制度に詳しいなど）を示すようお願いしたい。

(あいち健康の森健康科学総合センター 津下センター長)

- 研修の中で、グループワークによる演習は人数を絞らざるを得ないと思うが、座学（講義）は定員を上回ってもできるだけ多く受け入れても良いのではないか。

(2) 県内での取組状況について

(藤田保健衛生大学 星長学長)

- 6、7年前の観光庁からの話をきっかけに、医療ツーリズムに取り組み始めた。20床に加えて新病棟も対象とし、1日5名程度となっているが、精神科は扱っていない。人目につかないようにするなど、患者の情報セキュリティの確保が強く求められている。中国には5拠点を設けている。

(名古屋大学医学部附属病院 石黒院長)

- 通訳はどうしているのか。

(藤田保健衛生大学 星長学長)

- 中国人の通訳がいる。日本の看護師資格を持つ中国人もいる。

(名古屋市立大学病院 小椋院長)

- 日本に在住している外国人の診療費との区別はどうしているのか。

(藤田保健衛生大学 星長学長)

- 在住外国人は医療保険がある。医療ツーリズムは自由診療である。

(愛知学院大学歯学部附属病院 服部院長)

- 中国人が多いのか。

(藤田保健衛生大学 星長学長)

- 確かに中国人が多いが、ブラジル人などもいる。インバウンドについても中国人が多い。アラブ諸国でのPRは苦勞しているが、診療費は高いと言っても欧米の半分に過ぎず、強みである。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 中国がターゲットであるものの、セントレアは他のアジア諸国との航空網が弱い。ASEANにはマーケットがあるのに残念だ。ガルーダの就航を目指して、8月にジャカルタへ行く予定がある。

(名古屋大学医学部附属病院 石黒院長)

- 医療機関のホームページに料金表を掲載するのはどうか。

(藤田保健衛生大学 星長学長)

- 日本人は商売下手なので、掲載すると逆にねぎられてしまう。事前に個別で見積を示している。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 料金表は公開しない方が良い。在住外国人が家族を日本へ呼ぶことがあるが、医療保険で安く済む本人と比べてなぜ高いのかと言われてしまう。個別にきちんと説明しながら示した方が良い。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 2016年に中国籍のスタッフを含む国際医療部を設置した。人口規模やアクセス面から、中国を主なターゲットとしている。「株式会社 KAIKOUKAI MEDICAL ASSIST」で医療滞在ビザに係る身元保証機関の認証を受け、多岐に渡る患者サポートをしている。人口が減少していく日本の将来を見据えて、事業遂行と将来への存続のために医療ツーリズムに取り組んでいく。

会員相互の協働によって、海外からの医療における訪日旅客を中部メディカルトラベル協会に誘致するために「一般社団法人中部メディカルトラベル協会」を設立しており、現在 23 団体が会員となっているが、さらに拡大を目指したい。

(愛知学院大学歯学部附属病院 服部院長)

- 「中部メディカルトラベル協会」の会費はいくらか。

(中部メディカルトラベル協会 木村事務長)

- 年 1 万円で、規模によって最大 10 万円となっている。

(愛知学院大学歯学部附属病院 服部院長)

- 医療ツーリズムにあたって苦情や訴訟はないのか。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 当然あるので、弁護士とともにしっかりと準備している。裁判は必ず日本で行う必要がある。

(あいち健康の森健康科学総合センター 津下センター長)

- 患者が治療してから帰国した後、どのように地元医療機関と連携を取っているのか。また、中国で求められる医療ニーズについてリサーチされているのか。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- リピーターになってもらいたいので、継続的に訪日してもらおう。それができない場合は、中国の医師免許を持つ者を現地に送ることもある。地元医療機関に紹介するとキックバックの問題がある。ニーズについては、ケース・バイ・ケースである。

(藤田保健衛生大学 星長学長)

- 中国の医療が信用できないために患者が流出してきている。日本の医療機関の対応に対する評価は高いので、その需要を取り込みたい。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 薬についての不信感も強い。過剰投与の問題もある。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- 先端医療とはどのようなものか。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 陽子線による治療などは、シンガポールやマレーシアと比べて日本がかなり進んでいる。一方、必ずしも最先端でなくても、炭酸泉による糖尿病治療などでも差別化できる。

(3) その他

(藤田保健衛生大学 星長学長)

- 医療ツーリズムで訪日する際に、なぜ名古屋なのか、となる。アジア諸国との航空路線が十分でなく飛行機も古い。中国の上位 0.1%の平均資産は 225 億円となっており、プライベートジェットでも来られるが。観光もそうだが、東京・大阪に負けないよう愛知県として呼び込む努力をお願いしたい。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- 知事も危機感があるからこの協議会を設置したのだろう。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- ジャカルタへのアウトバウンドは需要があるが、その逆がないからセントレアとインドネシア間に直行便が飛ばない。

(藤田保健衛生大学 星長学長)

- 国家戦略特区で医療滞在ビザを簡単に取れるようになれば良い。

(愛知県歯科医師会 内堀会長)

- 地域医療計画でも、愛知県は全国に比べて一人当たりの病床が潤沢でないはずだが、日本人の医療を圧迫しないのか。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- 「地域医療に影響を及ぼさない範囲で」というのが基本路線である。

(名古屋大学医学部附属病院 石黒院長)

- 医療費が削減傾向にある中で、このままでは現在の財政規模を維持できず、国民への医療サービスも維持できなくなる。他のリソースとして、より効率の良い患者を求めていく必要がある。

(藤田保健衛生大学 星長学長)

- 医療ツーリズムが患者全体の3%を超えることはないようにしている。

(医療法人偕行会 川原理事長)

- 海外の富裕層が対象であり、日本人の医療を圧迫することはない。むしろ日本の医療を守るためと考えている。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- 保険診療を成り立たせていくためにも、海外からのリソースを注入する必要があるという考え方である。もちろん、全ての医療機関がこのような方向性を取る必要はない。

(愛知県政策顧問 植村顧問)

- 愛知県としては、東京ビックサイトに次ぐ大規模展示場を整備し、ASEAN諸国から人を呼ぶための第2滑走路実現を目指す委員会も作った。認知症研究にも国立長寿医療研究センターとともに取り組んでいる。これらを発信して知名度を上げて行きたい。